

# 京交山岳部報

No 412

'87 2月号

〔第1617回例会〕 冬山トレーニング

## リトル比良

日 時 2月1日(日) 集合 国鉄京都駅 2番線東の階段上がった所  
AM 7:05 乗車  
コ ー ス 京都—北小松…梅滝…オトシ…近江高島—京都  
担 当 者 梅津 吉田 武(311-0998)  
備 考 冬山装備一式

〔第1618回例会〕

## クツオ 吼子尾山△519m・高砂峰

日 時 2月4日(水) 出発 妙心寺総門 AM 7:00  
コ ー ス 上ノ橋—R 9号—福知山—穴裏峠—東芦田—吼子尾山—東芦田—矢の口  
—高砂峰 ca 420m—往路を出発点に戻る。  
担 当 者 伊藤潤治(463-4936)

〔第1619回例会〕 冬山合宿

## 木曾駒ヶ岳

日 時 2月6日(金)~8日(日) 出発 壬生 6日PM 1:00  
コ ー ス 6日 京都—京都東I.C—駒ヶ根I.C—管の台(泊)  
7日 管の台—しらび平…千畳敷…乗越浄土宝剣山荘前(泊)  
8日 中岳…木曾駒ヶ岳(2,956m)…中岳…乗越浄土…千畳敷…  
しらび平—管の台—駒ヶ根I.C—京都東H.C—壬生(PM 8:00  
頃解散)  
担 当 者 梅津 吉田 武(311-0998)  
申し込み 担当者まで、〆切 1月31日まで。  
打 合 せ 2月4日 PM 5:30 厚生会館前(ザックを持って来て下さい。)  
費 用 10,000円

[第1620回例会]

### △595m (点名 下山)

日 時 2月10日(火) 出発 妙心寺総門 AM8:00  
コ ー ス 上ノ橋-R9号-須知-R27号-蔵-△595m-往路を帰る。  
担 当 者 山村敏郎

[第1621回例会]

### 北山ミステリーコース

日 時 2月11日(祝) 集合 壬生 AM7:00  
コ ー ス 参加者にそっと教えます。  
担 当 者 OB 津田 実(799)  
備 考 冬山装備一式(必携)

[第1622回例会] スキー登山

### 伊 吹 山

日 時 2月15日(日) 集合 壬生 AM5:30  
コ ー ス 京都-京都東IC-米原IC-伊吹登山口-リフト...山頂...登山口-  
往路帰路  
担 当 者 本局 大槻雅弘(722)  
備 考 申込み〆切 2月12日まで。マイカーを利用しますので必ず申し込んで  
下さい。

[第1623回例会]

### 大徳山II △556 と出石の皿そば

日 時 2月16日(月) 集合 妙心寺総門前 AM7:00  
コ ー ス (R9) 養父町堀畑-十二所-大徳山-出石 地図 出石5万  
担 当 者 奥村弘信

[第1624回例会]

### 行者山△668m・蘭越△748m

### 春日越△998m・池ノ谷越△738m

日 時 2月24日(火)~25日(水) 出発 西大谷バス停付近 AM6:00  
コ ー ス 名神京都東IC-栗東IC-鈴鹿峠-松阪-R42号大内山村尚方-  
行者山-間方-蘭越-R42号-海ヶ谷-林道終点幕営...春日越△998  
m及びc a 1030m...幕営点...林道を下り...池ノ谷越△738m...往路を  
帰路  
担 当 者 伊藤潤治(463-4936)

〔第1625回例会〕 スキー登山

位 山

日 時 3月7日(土)～9日(月) 集合 国鉄京都駅中央改札 AM8:00  
 場 所 岐阜県大野郡宮村 民宿「飛弾の田吾作」(057753-2134)  
 担 当 者 梅津 吉田 武(311-0998)  
 備 考 申込み〆切 3月1日までに担当者まで。 費用 約20,000円  
 装備 スキー登山一式、着替。 グレンデスキーも可能。

その他の例会予定

3月13日～15日 ユズルハ 炭路島 諭鶴羽山 担当 奥村  
 3月20日～22日 山スキー合宿 和田山牧場(願教寺山～薙刀山～野伏ヶ岳)  
 担当 大槻雅弘  
 3月29日 府県境シリーズ 明神ヶ岳、黒柄岳 担当 津田・岡田

今月の集会

インドア 「山スキー」 広瀬光太郎  
 2月 2日(月) PM6:30 厚生会館4F大教室

総会(3月の集会)

参加申し込みは広瀬(854)まで  
 3月10日(火) PM6:30 場所未定

企画運営委員会

2月10日(火) PM6:00 厚生会館4F大教室



緑のオーナー

岡田 茂久

「緑のオーナー」難しくいうと、国土緑化に最もふさわしい林業振興対策として、昭和58年に国が分収林特別措置法を制定、法律の庇護のもとに林野庁が「21世紀に実をむすぶ」のキャッチフレーズで推進している分収育林制度である。

一般に「緑のオーナー」として知られ、いまや静かなブームとなっている。

戦後の復興期から高度成長期にかけて乱伐された日本の森林も、その反省から本格的な造林が進

められてきた。そしていまでは全国の森林の50%は人工林である。しかしそれらの森林の80%は樹齢30年未満の若い木であり、ちょうど間伐期に達し手入れが肝心の時期でもあるが、木材不況のおりでもあり赤字に苦しむ林野庁を始め、製紙会社などの林業界ではその費用の捻出に苦慮するところであった。そこで考えられたのがこの分収林育成制度である。

どういふものかという、樹齢20~30年の杉や檜を対象とし募集者(国、公共団体、民間林業者)が投資者をつのり、その投資金で植林からここまでにかかった費用を精算。そして今後の間伐や下草刈り枝打ち等の費用と、50~60年後に伐採して得た収益を募集者と応募者が折半するというなんとも気の長い話である。

もっとも応募者は出資金(一口40~100万円)をがすがいで数十本の木が自分の所有となり後の作業は応募者が責任をもって実施し、山火事や風害には森林保険がかけられ安心である。林業振興策として法律で保護されているから、契約した立木は不動産として登記するが普通の不動産と異なり不動産取得税や固定資産税も免除という特典がある。

その上応募者側ではこの「緑のオーナー」たちに「あなたの森で森林浴をと。誘いをかけ、フィールドアスレチックなどの施設を作り現地宿泊の便宜をはかり、なかには現地産のシイタケや農産物を定期的にプレゼントするなど様々なサービスがなされるなど、なかなか魅力的で夢がある。

しかし、肝心の収益はどのくらいかとなると「木造家屋一軒分の材木が手に入るでしょう」とはなほ抽象的なこれまた夢のような話でなんとも心もとないものである。

ところが、国有林を始め民有林では岐阜県の「奥美濃きずなの森」。近郊では京都京北町の「洛北の森」。北海道では「知床きずなの森」。うっかりすると詐欺商法と間違えられそうな場所でも売出しと同時にすぐ売り切れで大好評ということである。

いかに多くの人々が緑にあこがれ、また夢とロマンを求めているかということがうかがいしれる。

この制度を発展させ、収益は望めないが夢とロマンを得るということで、今問題になっている全国のブナ等の原生林の立木一本一本を売り出したらどうだろう。「あの尾根のあの木はわしの木や」、ロマンがあると思うが。

おりから、新年恒例の宮中行事「歌会始の儀」今年の題は「木」である。

天皇の詠まれた歌は、「わが国のたちなおり来し年々にあけぼのすぎの木はのびにけり」。

あけぼの杉(メタセコイヤ)ほどでなくても、分収林の杉や檜がすくすくと成長し、30年後の夢はどんなものか私も見たいものであるが、明日の山行きの費用や装備の買い替えに苦勞しているかぎり、私自身はなかなかそんな夢とロマンは追い求められそうもない。

ひとつ山岳部40周年を記念し資金を流用するか、みんなで分担して一口でも購入し30年後のログケビンの夢でも見たいものである。

## 湖 北 天 吉 寺 山

大 槻 雅 弘

秋から冬にかけてよく歩いた。例会に殆んど一緒だった津田のオトウチャンに今回も同行してもらった。最近の部報の「登頂記」はオトウチャンでいっばいや。先週は(61年11月30日)多田ヶ岳で雪を踏み登頂し、「冬山装備が泣く程暑い」とレポートにオトウチャンは書いていたが、

それが一変して天吉寺山の登頂は雪の中、ブルブル震えて立ったままの三角点での食事であった。この山は5月に坂井氏が1000山登頂前にと登られ、田中忠久氏がかって湖北シリーズで登頂済みである。しかし、天吉寺山と言っても『どこにあるの』と言う人が多い程、あまり山名は知られていない。

かって歴史上に残る人物である平氏、織田氏に二度も焼き打ちに合い、焼失した天吉寺跡を山腹に残す、古い歴史を持つ山であり、土地である。

最近はいろんな本もたくさん出版され、特に近江や、湖北の本も多い。参考のため紹介しておく、「近江の山々」「近江の山」「近江、湖北の山」と、この方面の山なら大体山名が網羅されている。そんな山に、急に登りたくなって、例会に出した「暁晴山」を変更して申し訳なかったが、一日中不安定な天候でガスったり、小雨になったり、雪になったり、またすぐ晴れたかと思うとみぞれになったりした中を「ア～山はエエ」というて、登ってきました。

名神を米原から別れ長浜まで走ると右手に見える位置にある。長浜インターから草野川沿いに野瀬の部落を通り勤労者宿泊研修の前まで車は入った。そこから良く整備された道を歩くが、車を止めた所が大吉寺跡であり、中腹の道の終点が天吉寺跡である。まぎらわしい名だが山はこの上の寺名を採ったのか天吉寺山である。とにかく貞観7年(865年)開創と古いものである。

道は覚道上人入定窟で行き止りのようで、後は踏跡を稜線へ登るが、この辺りから先週の雪か、目につくようになった。急登して稜線に出たところで伊吹山から虎子山、ブンゲンの山を目の前に見る。予想した通りの径であり、そう苦にもならず稜線を進みピーク手前の鞍部で一休した。

あやしい空からは雪が降り出し、みぞれになった。赤、黄、青と目印を追って、最後のトップはカッチャンが一番乗り。オトウチャン、ミツハシサンと小生4人冷えた体に冷えたビールで声小さくカンパイ。降りてメシにしようか、というのを「エエヤンカ、サムテモ」ということで鼻スリ手を股グラで温め、それでも凍りそうなビールを飲んで「山はエエ」というて人種とまた、一日が過ぎました。

晴れていたらきっと展望もよいがろう二等三角点を早々に退散し、帰降しました。先週は雪の降った後の快晴で、海を見て楽しくワイワイやったのに、それに較べ本日の山行はエライ違いやと、晩秋、初冬の天候の変り目がよくわかった山行でした。

〔コースタイム〕 12月7日

壬生 7:05 - 8:45 車止 9:00 ... 9:40 仁王門跡... 10:26 尾根... 11:45 ▲ 2等天吉寺山 12:25  
... 13:25 尾根... 14:20 大吉寺 - 18:00 壬生

〔参加者〕 津田、三橋、原田、大槻雅弘

### 第1611回例会

## 奥村弘信氏還暦お祝い登山

# 山! ありがとう

## 奥丹波 胡麻峠～三国岳～胡麻峠～養老山

田中忠久

…池に水が戻っていたのである。5月の薫風にさざ波を立てて、その美しい幽そりの情景に何か救われたような安堵感をいだきながらただ見とれていた。…それにしても年々還暦をお迎えになるOB部員とともに若い部員や時には息子や娘まで伴って一緒にお祝い登山のできる山岳部、こんな山の会はそうザラにはないのではないかと。こういった仲間を大切にしたい。有難い、幸せなことである。

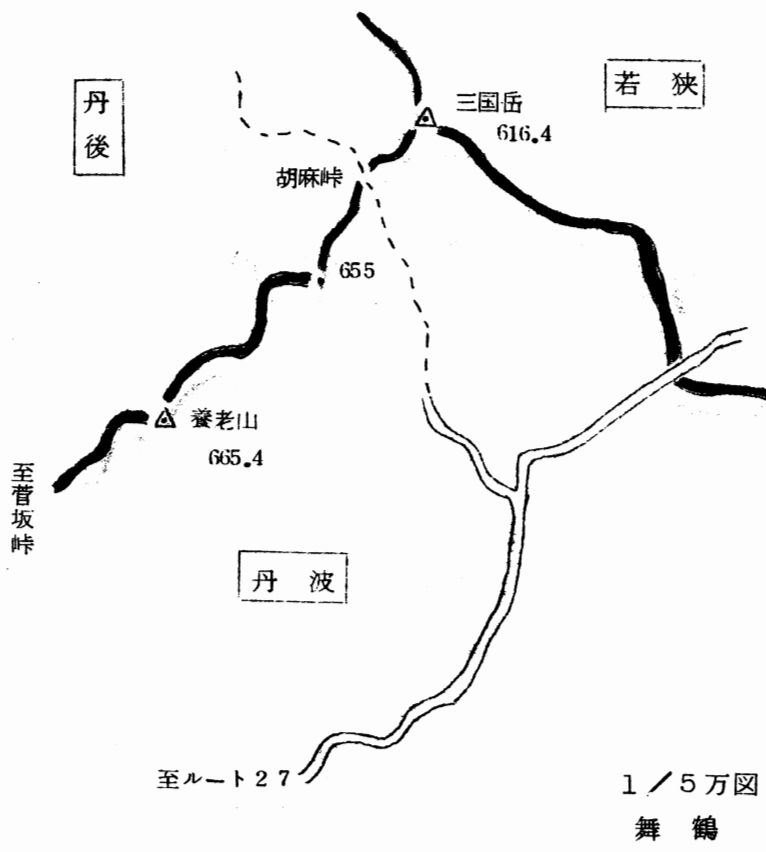
9年前、山村敏郎氏の還暦お祝い五蛇池山登山報告、宮後さんの一文が今も胸がしめつけられるようになつた。そして今年もまた、多くの山の仲間と奥村弘信氏還暦お祝い登山が挙げてきたのは、いまさらにその有難さ、幸せが身にしみる思いである。

当日、天候はよくなかった。何人の人が集るのだろうかと不安な気持ちで来てみると、余りに多くの人が集っているのでびっくりしたと、車の中で話していた人がいたが、初代部長の近藤さん、長老格の伊藤さん、中村さん、ますますお元気の山村さん、津田さん、横井さん、今井さん等OB部員の方々の参加を得て、総員26名が7台の車に分乗し、壬生を出発したのは30分遅れの7時38分であった。

国道9号線、27号線と走り、奥上林川の上流、高浜へ抜ける手前で左折し、大唐内の集落を通過するとほどなく林道は終わった。雨に備えて身仕度を十分に整え、荷物をそれぞれに分担して出発する。よく整地された関電の巡視路は約40分で私道を胡麻峠へと導いてくれた。

“舞鶴の東方に三国岳という616mの山がある。この山は丹波、丹後、若狭の三国を分つ山であるが、この山から西南に連なって養老山、菅坂峠に至る尾根が丹波と丹後の国境尾根、即ち両丹尾根である。胡麻峠はこの三国岳から両丹尾根を少し下った肩のところを越している。春先など山また山の丹波から峠道を辿って峠に着くと、古い夫婦松が恰好よく峠の形を作り、峠の広場にはシャガの花が一面に咲きこぼれている。その薄紫の花の向うには木の間越しに青い舞鶴の海が的鏝と光るのである。”

金久昌業氏著「北山の峠」中巻には、扉の美しい写真とともに胡麻峠がこのように紹介されている。しかし残念ながら、この日は天候が悪く、青い舞鶴の海は見えなかったし、シャガやスミレの花が一面に咲きこぼれている峠など想像すらおよばなかった。できれば春先にもう一度、訪れてみ



たいし、「このあちら側の道、丹後へ下るすばらしい道」を歩いてみたいと思う。

また、この日この時は少しせわしかった。府県境シリーズの三国岳へは10分で往復、お祝いのセレモニー、かす汁の準備、坂田利春さん差入れの御酒をいただきたり、なんやかんやで1時間30分が過ぎてしまい、気が付いた時は、ごきげんで養老山への道を歩いていた。この日、一番遅者だったのは山村さんで終始先頭を歩かれ、その後をおしゃべりなどしながら付いて登るのは楽しかった。

養老山々頂で奥村さんに記念品を全員でお贈りし、またまた御酒をいただきたりして、幸せが全身に満ちて来たのはこの頃であった。思えば、天候はよくなかったけれども、雲海に浮ぶ山はそれなりに美しかったし、三国岳山頂からは若狭の海も見られた。かす汁の準備をしてくれた岡本君ありがと、冷えた身体にとってもおいしかった。この日の山行を計画し、大パーティをテキパキとリードしてくれた岡田部長のバイタリティもすばらしい。一時はご病気で、もう山へ登っていただくことはないのだからかと心配されていた近藤さんが、ほんとうにお元気になるれて、またこうして

一緒に山へ登らせていただけるのは、むしろ有難くうれしい。

“山！ ありがとう。万感の思いを込めて記念色紙に書かしていただいたこの日の奥村弘信氏還暦お祝い登山でした。

〔コースタイム〕 12月14日

みぶ 7:38 - 8:44 須知ドライブイン 8:52 - 10:06 大唐内駐車地点 10:35 ... 11:16 胡麻峠  
11:21 ... 11:32 三国岳 11:45 ... 11:59 胡麻峠(昼食) 13:34 ... 14:50 養老山 15:15 ... 胡麻峠  
16:25 ... 16:50 駐車地点 17:08 - 須知 - 20:10 みぶ

〔参加者〕 OB 奥村、近藤、伊藤、中村、山村、津田、横井、今井

本局 渡辺、方山、大槻、三橋、大木

高速 岡田、出海 梅津 吉田 横大谿 岡本 九条 和田

錦林 田中 烏丸 台川、大倉、森本、大倉 F

洛西 武田、武田 F 市役所 荒田 計 26名

## 第1612回例会

# 納 山 会

山 元 誠 一

春に子供(名前は「えみ」タンでしゅ！ ヨロシク！)が生まれて以来、とんと山から遠ざかりもっぱら子守りにいそしんで(?)いましたが、12月の納山会の担当を仰せつかることとなり、子供の替わりに久し振りにリュックサックを背負っての山行と相成りました。当日の朝も、子供の寝顔に心を残しながら家を出た次第です。(?) しかし、いざ山に入ると子供の事も何もかもすべてを忘れてしまい、好天の下、充分山登りを楽しむことができました。これが山の魅力なのでしょうか？ それとも、私は悪い「お父さん」なのでしょうか！

ここ数年、納山会といえば、落合でやることになっていた様ですが、マンネリ化を打破するために、今年は場所を変え、山科の牛尾キャンプ場で行なうことにしました。しかし、交通の便が悪いこと等もあって参加者が少なく、チョッピリ寂しい納山会となりました。

参加者が少ないということや担当者の準備不足等で、当初予定していた踏査競技も変更せざるを得なくなり、急拠、読図力を競う方法(全員でコースを回り、指示する地点を地図上に記入してもらうもの)に変更しました。

「読図力」、読んで字の如く地図を読む能力のことですが、私自身、いままでの山行で本当に地図を見ながら登った記憶は皆無で、もっぱら道標とカンのみでの山登りをしてきました。今回、図らずもそういう競技を行った訳ですが、読図の難しさを改めて認識した次第です。特に地図上にない道に出くわした時、地図に載っている道がなくなっていた時、少し疲れてきた時等、どうしても判断能力が落ちてしまうことがよくわかりました。他の方はどうだったのでしょうか？



今回は、牛尾キャンプ場から千頭岳を経て牛尾キャンプ場に戻るコースとし、チェックポイントもわかりやすい所をとということで、ルートと交叉あるいは平行に張架されている送電線の近辺や鞍部、頂上の三角点、曲がりくねっている道の曲点等を鷺見さんにご選定して頂きました。しかし、途中ゴルフ場近辺は、開発のためか、地図に記載されている道がなかったり、逆に地図にない道があったりして少々面喰らう所がありました。

そんなこと等もあってで、当初2時間余りと思っていたコースタイムを1時間以上もオーバーしキャンプ場に戻ったのは、13時を過ぎてしまい、炊事当番をお願いして、1人残ってもらった川原君をやきモチさせてしまい申し訳なく思っています。

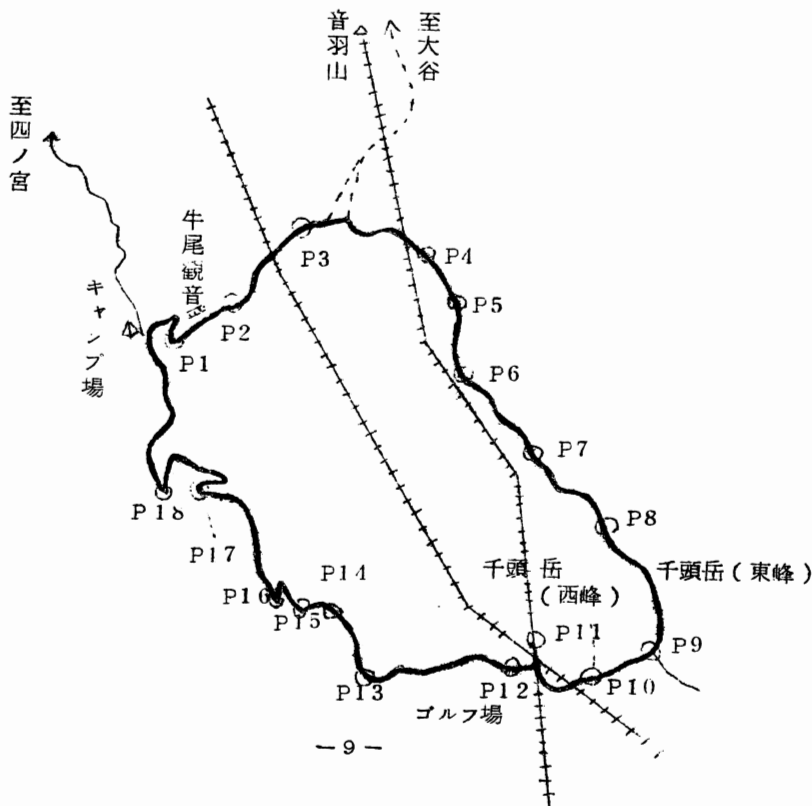
そこで、早速、美味しくできあがったおでん風水煮きを全員で味わい、たき火で焼いたヤキイモを口にほおはる等、いつもながらのワイワイガヤガヤの納山会風景となりました。

昼食中に、鷺見さんに参加者全員のポイントチェックを採点してもらい、最高点を採った人から順に用意していた賞品等を授与しました。全ポイントを当てた人、惜しくも1ポイントだけはずれた人等々。でも、皆さん正解率は高かったみたいです。

今回、初めて(?)実施した「読図競技」天候に恵まれたことや、比較的わかりやすいコースやポイントであったこと等で結構楽しめたのではないのでしょうか? また、今後の山行に少しはプラスになるのでは!

また、こういう機会があったら次は、家に忘れてきた「えみ」タンを背負って参加しますのでその時はヨロシクお願いします。

なお、コースとチェックポイントは次のとおりです。(12月21日)



[参加者]

坂井、岡田、鷺見、鷺見 F、大槻(貞)、三橋、出海、木下、楠、方山、井戸、井戸 F 3、川原、山元

### 第 1613 回例会

## 初 登 山

# 二上山から屯鶴峰え

津 田 実

我が京交山岳部の初登頂は、毎年愛宕山に登り、神前で御破いを受け、せんざいで新年を祝うのが通例となっていた。それが一昨年から、マンネリから脱却する一方法として、目を南方に転じ、雪の高見山え、又、朔風凄まじい古代遺跡を自転車で巡ると云う山岳部としてはユニークなところみを行い部員諸郷の賛同を大いに受けた。

そこでか、どうかは知らないが今年は、歴史を尋ね、万葉のロマンを求め、二上山と屯鶴峰え行くことになった。

壬生で部長から戴いた案内書のコピーによれば、瀬戸内火山帯に属する二上山(雄岳と雌岳)は古代の人に信仰の対象とされ、男女二神に見たてられ「ふたかみやま」とよばれていたという。

今も雄岳の頂上に水の神として、山麓の人々の信仰を集める二上神社が残り、古代から続いて来た信仰の名残りとどめる。雌岳は、明るい台地状の頂きで展望もよい。

このコースは、山頂の歴史と展望を楽しみ、凝灰岩の奇勝屯鶴峰を訪ねるワンデイコースである<sup>どんづるぼう</sup>とあった。

壬生から車 3 台、途中で 1 台加え一路 R 24 号を南下、畑の集落外れの春日神社前に駐車、服装を改めていると、三橋さんと丸上さんが出現し 16 名の参加者となり、地図をたよりに出発する。

林道終点から左え小道に登り、近鉄の無線反射板を送ると尾根道に出る。地図を見ると▲4等 266.4 があるので道から外れて三角点にタッチ、尾根道を登って行く。

今日は、近藤先輩の参加を戴いた。そもそも、そのスタイル、古いスーツに、キャラバン・シューズ、コールテンの登山帽、

部員諸郷よ、笑うことなかれ、小生が山をやりだした頃は、これが普通、いや、もっとも先鋭的な山屋スタイルであった。それから、ブラック・スタイル、のち、黒いマール、黒いシャツに黒のトレンカー、ヌガーの重い革製の登山靴、もちろん黒だ。上から下まで黒づくめ、殺し屋スタイルへと変って行ったが、

### 閑 話 休 題

左手に見える大和平野を愛で乍ら歩を進めること暫し、纏て、二上神社口からの登山道を左に見ると、草壁皇子と皇位継承権の争いに巻き込まれ、非業の最後をとげたと云はれる大津皇子の墓前が出る。

うつそみの人なる我や 明日よりは 二上山を弟世とわが見む<sup>いろせ</sup>

尾根道から大和平野を、更に万葉のロマンえと想いをはせているとき、「1人入山料200円頂きます」との無料な声、夢もロマンも無残に打ち砕かれ、非情な現実に戻された。

二上山雄岳山頂の葛木二上神社境内地は激増する登山者により荒廃甚しく、ゴミはもとより本殿、拝殿、社務所、参籠所もその犠牲になり、果ては、周囲の森林までも荒され云々と書いた一片の紙切れと共に財布の中から忽然と消失した、金200円也。

だが、僅かの金で購入することの出来ない素晴らしい景観がそこにあった。

雄岳から右手には泉州平野とその向うに大阪湾がガスにくもり、正面に小広い台地状の雌岳、その前方に金剛山が聳え、左手には大和の田野がひろがっている。これぞ価千金、汗水を流して登って来た甲斐があったと云うものだ。

雌岳の頂上は、広い台地の真中に三等三角点があり、其処で恒例の万歳を三唱したら、付近に居たハイカーが奇異の目で見ていた。

雌岳頂上での楽しい食事もあり、指導標に従い笹の葉に隠れた急な階段の小径を二上谷目指してどンドン下る。誰方がお付けになったのか？ ダイヤモンド・レールとあった。

急な階段が終ると苔の付いた滑り易い小さな流れに沿って、暗い杉林の中を進む。驕て、前方の空が明るく見えると左手に金剛砂採掘場跡に出た。

西部劇によく出るゴースト・タンウと迄は行かなくても、かつて此の工場が活躍していたであろう面影は今も無く、その廃墟程空しいものはない。慄然肌に粟を生じる思いがした。(少々オーバーカナー)それからの道は、正に塵芥捨場の中を歩いているようなものでこれがダイヤモンド・レールとはと恐れ入った次第である。

やっとの思いで近鉄南大阪線迄出てきたらそのガードが又、水が溜って通行不能、仕方なく線路を渡って広い道路に出た。

ところが驚く勿れ其処にダイヤモンドレール入口と大書した看板が建っていたので一同口あんぐり。その入口左手少しに屯鶴峰入口の広い階段があった。

案内書によれば

屯鶴峰は約13万平方mの面積からなり、凝灰岩が流水によって浸食を受け、現在のような地形となったといわれ、その奇観は周囲の松の緑と相まって、ちょうど鶴がむらがっているような景観から、屯鶴峰の名が付けられたとのことである。とあった。

その名称の変ったことのように先程の不愉快な思いが一度にふっとんで、全員、その変った岩肌の感触を充分に楽しんで帰った。

## 感想

葛木二上神社で入山料を徴収され釈然としなかったが、帰路歩いた道でその理由が判った。自然の大切さを理解出来ない輩の入山を阻止せねば、少々の入山料では、追着かないがろうと思った。

62年1月4日

〔参加者〕 近藤、奥村、津田、村、渡辺朋、岡田、三橋、鷺見、大槻貞、渡辺智・夫人、  
楠、原田、方山、和田、井上

〔コースタイム〕

壬生 7:20 → 8:40 春日神社 9:10 → 9:40 Δ IV 266.4 m → 10:30 大津皇子御陵前 → 10:35  
二上山（雄岳） 10:40 → 10:55 雌岳（昼食） 12:00 → 12:50 屯鶴峰登山口 → 屯鶴峰散策  
→ 屯鶴峰登山口 13:50 → 14:30 春日神社 14:50 → 京都（順次解散）

## 奈良～山の辺の道を歩く

田 中 定 勝

12月14日（日）曇ノチ雨 今年さいごの歩きじまい。

午前8時41分 国鉄城陽駅発 午前9時35分 長柄駅着

コース

国鉄桜井線長柄駅→大和神社→手白香皇女陵→長岳寺→崇神天皇陵（第10代）→景行天皇  
（第12代）→檜原神社→玄賓庵→大神神社（三輪明神）

大和で最も古い交通路でのひとつで、三輪山・巻向・弓月ヶ岳、春日と大和高原の西すそを伝って奈良に入っている。細く曲りくねった道で大和の最も古い社が道沿いに多く続く。下車して地図を見ながら出んぼの畦道を歩き出すと雨が降ってきた。

成願寺の登山口より龍王山長岳寺の八十八ヶ所巡りをし、本堂の横へ下山して拝観料を払い長岳寺の色々な伝説やその周辺の史跡とうり住職から聞きました。朱印をすましたら丁度昼頃であった。名物の三輪そうめんを御馳走になった。また雨が降っているなかを歩くのも… 帰宅4:30

**大和神社** 神殿は3社あり中央に倭大国魂神、向って右に八十才神、左に御年神を祀る。それぞれ国土経営に功のあった神々であり、大和一国の地主神である。社殿はいずれも元永元年（1118）の火災にあり、現在の建物は明治時代のものである。また我社高麗神社は、雨を司る神といわれる。

**手白香皇女陵** 長岳寺の北方、継体天皇の皇后手白香皇女の墓といわれる全長140mの前方後円墳で、この付近に散在する大和古墳群のなかでは、もっとも大きなものである。

**長岳寺** 俗に釜口大師とも呼ばれている。天長元年（824）空海の開基と伝えられる。寺運盛んがったころは、40棟の建物が麓をならべていたが、たびたびの兵火と廃仏毀釈で衰え、現在は藤原鎌倉時代の建物と仏像を残し往時の面影を伝えている。

**崇高天皇陵** 全長約240mに達する堂々たる前方後円墳で、深い緑の水をたぐえる堀が美しい。

天皇は開化天皇第2皇子在位68。御所は三輪山の南西麓、磯城瑞籬宮であった。  
古墳前方には4基の陪塚がある。

**景行天皇陵** 3段に構築された前方後円墳で、全長約300m。周囲には堀がめぐらされた堂々たる古墳である。天皇は垂仁天皇の第3皇子、在位60年高穴穗宮で崩御。

**檢原神社** 三輪山麓、山の辺のみち(東海自然歩道)沿いにある。大神神社摂社である。また垂仁天皇58年(87)この地に宮居を定め、2年間神器を奉斎されたところともいわれる。さらに日本書記によれば、崇神天皇が豊鍬入姫命をして天照大神を祀ったといわれる笠縫邑はこの地といわれている。

**玄寶庵** 三輪山の西北麓、弘仁のころ玄寶僧都が草庵を結んで、隠遁したところといわれる。本堂には藤原時代作と思われる木造不動明王坐像がある、またここは、謡曲「三輪」で知られるところ。

**大神神社** 背後の三輪山を御神体として鎮座するわが国最古の神社と伝える。三輪山は御諸山、また神体山ともいわれ、古くから聖なる山、神の山として崇められ、三輪山神話として記紀にも、しばしば登場する。よって神殿はなく、拜殿の奥に三輪鳥居(重要文化財)と称される三つ鳥居がある。その奥が禁足地となっている。拜殿は寛文3年(1663)の建築(重要文化財)。

民間信仰が厚く、参詣者が絶えない。また、酒の神としても崇められ、全国の酒造業者からの献納が多い。祭神は大物主大神、大己貴神、少彦名神。

## 照 顧 脚 下 一

伊 藤 潤 治

私くらいの年齢になると、やむを得ない事なのか知らないけれども、視力に異状がおとずれ、平衡感覚にも波及して、山地の歩行が目立ってきこちなくなってきた。それに先頃より左ヒザの不調が加わって、このところ不便が二重奏になってきた。

私はそれでもこれで足元に不断の注意を払うからかえって山歩きは安全になるのではないかと思っている。その向後の山を私は、今日まで私を育ててくれた京交山岳部の登山史をひもといて、そこから明日の山を考える事にしようと思った。登山史とは、他ならぬわが京交山岳部報創刊以来の例会記録を指す私称である。

その山岳部報は、この1986年12月発行で第410号となり、例会回数は1613回に及び、既に38年を経た立派な山岳辞典でもある。

ところで例会には、天候・担当者その他もろもろの事情により、中止・変更・未登が介在したりあるいわ主題以外にも、前後の登頂が行われている例も少なくないなど、例会数と主題そのままを

登山史とするのは、甚々気がひけるのだが、私としてはそれらの成果に目をつむり、たゞ例会掲出のみを挙げ、その羅列をながめて、明日の糧にいたしたくて着手したのである。

そもそも副刊号は、達筆の手書き「1952 山岳部報 OCT 27」の品よきタイトルで、振り出しの11月例会は「鈴鹿山脈主峰御在所岳登山と湯之山温泉え」と「六甲、ロックガーデン」であった。

わが登山史の第一ページは、この銘記すべき第一回例会御在所山で飾るが、この編集は便覧のため地勢図単位でのぞみたく、従って御在所山の場合は、20万、名古屋でつづることになる。(第回のみで例会は省略)

#### 津島(5号)

1. 笹ヶ岳・706m  
1 第1365回。(裏山・876m・表山△839mを併登)
2. 小倉山(養老山・安芸山)△859m  
1 第607・645・661・867・1119・1381回。
3. 石津御岳6494mと田代越え 6399m。  
第1378・1405回

#### 桑名(6号)

1. シリタ=△613m。  
第1418回。

#### 彦根東部(9号)

1. 三國岳ca920m(△815m)。  
第1486回。
2. 御池岳・1241m。  
第425・673・1055回。
3. 御池岳と藤原岳  
第1506回。
4. 靈仙山△1084m  
第389・398・403・441・548・653・1100・1153回。
5. 五僧越え  
第688回。
6. 五僧と鍋尻山△839m。  
第1003回。
7. 男鬼と武奈  
第994回。

御在所山(10号)

1. 藤原岳・1165m。  
第120・170・222・1600回。
2. 龍ヶ岳△1100m  
第517・891・1077回。
3. 八風峠  
第226回。
4. 釈迦岳△1092m。  
第1044・1092・1130・1133・1454回。
5. 御在所山△1210m。  
第1・26・52・82・107・112・194・353回。
6. 藤内壁  
第779・798・872・979・1071・1505回。
7. 御在所山—武平峠—鎌ヶ岳。  
第231・790回。
8. 御在所山と雨乞岳△1238m。  
第887・1040回。
9. 愛知川廻行  
第48・473・527回。
10. 銚子ヶ口△1077m  
第41回。
11. 押立山、東光寺山(コバンバ)△756m・明神山△685m  
第1037回。
12. 日本コバ△934m。  
第44・94・557・1036回。
13. 龍王山△826m。  
第521・862回。
14. 綿向山・1096m。  
第36・89・1032・1057回。

亀山(11号)

1. 鎌ヶ岳・1157m。  
第82・194回。
2. 入道ヶ岳△906m。  
第282・1217回。

3. 官指踏岳(チャツボ)△946m。  
第804回。
4. 猪鼻ヶ岳(宝殿ヶ岳)△509m。  
第1407回。
5. 高畑山△773m。油日岳・694m。  
第38回。
6. 那須ヶ原山△800m。  
第1053・1594回。
7. 南鈴鹿縦走  
第1499回。

津西部(12号)

1. 錫杖岳・677m。  
第1470回。
2. 靈山△766mと神野山△619m。  
第1064回。
3. 青山高原  
第27・131・205・631回。

近江八幡(14号)

1. 織山△433m。  
第1367回。
2. 太郎坊と岩戸山。  
第1357回。
3. 雪野山△309m。  
第971回。
4. 三上山・432m。  
第1237回。

水口(15号)

1. 飯道山△664m  
第405・817回。
2. 阿星山△693m  
第1565回(三国ヶ岳を変更)
3. 鶏冠山△491m。



第734・1326回。

4. 金勝アルプス。

第264・373・656・678・913回。

上野(16号)

1. 三ヶ岳と牛塚(牛場山)△647m。

第1190回。

続いては、第二回例会六甲ロックガーデンに依るべきだが、この身近な山々は地元の楽しみに残り、第六回例会鉢伏山麓スキー練習で、20万鳥取に飛び、ついでに隣国、20万松江をくっつけ第七回例会伊吹山スキーの20万岐阜に移っていく。

城崎(3号)

1. 高竜寺岳△697m。

第1220・1538回。

2. 法沢山△644m。

第1531回。

出石(4号)

1. 東床尾山△839m。

第1376回。

2. 鉄站山ca780m(△718m)

第1545回。

3. キンヤマ△737mと高竜寺岳。

第1358回。

4. 富岡山△707mと夫婦岩(コブロ)。

第1208回。

5. 居母山△731mとテッコウヤマ△760m。

第1364回。

6. 小猿山(三谷)△679mと龍ヶ城。

第1403回。

香住(7号)

1. 神鍋山

第9回。

村岡(8号)

1. 蘇武岳(蘇夫岳)△1074m。  
第10・625回
2. 妙見山・1142m  
第423回。
3. 妙見・蘇武岳縦走スキーツアー。  
第393回。
4. 兔和野高原  
第462回。
5. 瀬川山△1039m。  
第19回。
6. 鉢伏山△1221m。  
第6・126・739回。
7. 氷ノ山(須賀ノ山)△1510m。  
第35・37・64・126・129・172・342・432・483・  
507・520・540・596・600・630・992・1033・  
1163・1169・1254・1414・1530回。
8. 氷ノ山と鉢伏山瀬川山スキーツアー。  
第289・440・446・597・626回。
9. 鉢伏山と氷ノ山  
第500回。
10. 奥但馬地方山岳漫歩(山岳スキーツアー)。  
第92回。

若桜(12号)

1. 扇山△1310m。  
第65・93・663・786・1251回。

鳥取南部(16号)

1. 三國岳(三國ヶ山)△1252m  
第707回。

大山(松江8号)

1. 大山・1731m(△1713m)。  
第25・80・105・109・111・124・134・152・159・

189・214・253・268・270・290・333・401・458・  
490・523・687・895・1508回。

2. 大山と鳥取砂丘。

第272・345回。

3. 大山と矢筈ヶ山△1359m。

第323・745回。

4. 大山 甲川

第667回。

5. 大山一鳥ヶ山縦走。

第962回。

6. 大山と蒜山。

第535・615回。

白鳥(岐阜1号)

1. 鷲ヶ岳△1672m。

第1116・1120回。

2. 大日岳△1709m。

第501・1474回。

3. 飛騨の山と水芭蕉(大日岳・富士写ヶ岳)

第1425回。

4. 毘沙門岳△1386mと大日岳

第765回。

八幡(2号)

1. 滝波山△1413m。

第944・1225回。

2. 蕨山△1069m。

第1562回。

3. 高賀山△1224m。

第564・1452・1543回。

荒島岳(5号)

1. 荒島岳△1524m。

第451・516・559・660・882・959・1309回。

能郷白山(6号)

1. 猿塚△1221m。  
第1263回。
2. 平家岳△1442m。  
第167・223・303・858・898回。
3. 平家岳と猿塚。  
第1280回。
4. 平家岳と滝波山。  
第558回。
5. 左門岳△1224m。  
第370・475回。
6. 川浦谷から左門岳。  
第570回。
7. ドウノ天井△1330m。  
第1093回。
8. 日永岳△1216mと舟伏山△1040m。  
第988回。
9. 屏風山△1354m。  
第860回。
10. 屏風山と左門岳。  
第677・814・1039回。
11. 大白木△1234m。  
第1231回。
12. 尾ヶ平△927m。  
第1121回。
13. 曙ヶ岳△1454mと倉ノ又山△1216m。  
第1087回。
14. 越山△1129mと能郷白山。  
第1511回。
15. 能郷白山△1617m。  
第102・123・430・508・782・791・1000・1034・  
1074・1085・1267回。
16. イソクラ・1541m。  
第880回。

谷汲(7号)

1. 雷倉 $\Delta 1169m$ 。  
第284・338・386・1584回。
2. 花房山 $\Delta 1190m$ 。  
第1512回。
3. 花房山と小津権現山 $\Delta 1158m$ 。  
第1078回。
4. タンボ(かつら洞・吉衛門の頭・将棋の頭) $\Delta 1066m$ 。  
第584・1370回。
5. タンボと小津権現山。  
第1061回。

大垣(8号)

1. 池田山 $\Delta 924m$ と小島山 $\Delta 864m$ 。  
第998回。
2. 美濃中山(南宮山) $\Delta 419m$ 。  
第1371回。

大野(9号)

1. 飯降山 $\Delta 884m$ と日照岳 $\Delta 1751m$ 。  
第1427回。
2. 部子山 $\Delta 1465m$ 。  
第347回。
3. 部子山と銀杏峰 $\Delta 1441m$ 。  
第126回。

冠山(10号)

1. 冠山 $\Delta 1257m$ 。  
第346・1329回。
2. 冠山から若丸山縦走。  
第690・694回。
3. 若丸山 $\Delta 1227m$ 。  
第916回。
4. 金草岳 $\Delta 1227m$ 。  
第742・1013・1050・1082回。

5. 釈迦嶺(シヤカミネ・シヤカンダワー)△1175m。  
第999・1429・1532回。
6. 赤谷  
第465・611回。
7. 笹ヶ峰△1285m。  
第1170回。
8. 不動山△1241mと千回沢山△1246m。  
第1051・1088・1286・1334回。
9. 美濃炭丸△1254mと金草岳。  
第1006回。
10. 三周ヶ岳△1292m。  
第389・424・1238回。
11. 烏帽子山△1242mと三周ヶ岳。  
第456回。
12. 高丸(鳥ヶ東・ワシトムツ)△1316m。  
第1386・1396回。

横山(11号)

1. 五蛇池山△1148m。  
第589・789・1126回。
2. 五蛇池山と蕎麦粒山。  
第467・693・728回。
3. 蕎麦粒山(ソムギ)△1297m。  
第1463・1507回。
4. 黒津山・1182m。  
第1455回。
5. 天河山△1148m。  
第1422・1450回。
6. 飯盛山ca740m。  
第1413回。
7. 貝月山△1234m。  
第182回。
8. 三国ヶ岳・1209m。  
第849・1043・1151・1581回。
9. 三国ヶ岳と左千方(大梅尾山)△1197m。

- 第1510回。
10. 三国ヶ岳と土蔵岳。  
第771回。
11. 猫ヶ洞(三ツ又)△1065*m*。  
第1447・1457回。
12. 土蔵岳・1008*m*。  
第434・1047・1097回。
13. 土蔵岳と猫ヶ洞。  
第852・1604回。
14. 土蔵岳とナンノザカ△1068*m*。  
第1402回。
15. 横山岳△1132*m*。  
第165・644・946・1102・1105回。
16. 大ヶ屋(大貝山・新穂山)△1067*m*。  
第857回。
17. 新穂峠とナガオ△1040*m*。  
第1394回。
18. 金蔵ヶ岳・1314*m*。  
第716・777・1156・1420回。
19. 金蔵ヶ岳とシラクラ△1271*m*。  
第1041回。
20. 近江・美濃の峠と山、(貝月山)。  
第1056回。
21. 新穂峠越え  
第495回。
22. 百池峠  
第531・540回。
23. 滝谷の頭(奥山)△1057*m*。  
第1424回。
24. 己高山△923*m*。  
第831・953・964・1147回。
25. 夜叉妹池△986*m*。  
第834回。

長浜(12号)

1. 鎗ヶ先山 $\Delta$ 966m。  
第1435回。
2. 虎子山 $\Delta$ 1183m  
第989・1477・1571・1589回。
3. 國見峠  
第336・380回。
4. 伊吹山 $\Delta$ 1377m。  
第7・8・33・61・145・150・166・190・202・204・  
210・216・217・219・245・283・285・323・391  
498・666・735・776・819・868・1024・1070・  
1206・1353・1412・1415・1444・1475・1498・  
1520・1526・1569・1574回。
5. 伊吹北尾根  
第339・510・522・1302回。
6. 伊吹東尾根  
第359回。
7. 天吉寺山 $\Delta$ 918m。  
第839回。
8. 板並岳(高山・シコノ山) $\Delta$ 848m。  
第899・929・937回。
9. 七尾山 $\Delta$ 691m。  
第841回。
10. 小谷山 $\Delta$ 495m。  
第563回。
11. 虎御前山ca220mと臥竜山。  
第1107回。
12. 臥竜山 $\Delta$ 312m。  
第968回。

今庄(14号)

1. 上谷山 $\Delta$ 1197m。  
第1212回。
2. 木ノ芽峠と鉢伏山 $\Delta$ 762m。  
第980・1281回。
3. 西方ヶ岳 $\Delta$ 764mと蝶螺岳 $\Delta$ 685m。



第1458回。

教賀(15号)

1. 大黒山△892m。  
第575回。
2. 安蔵山△900m。  
第911・1181回。
3. 下谷山△902m。  
第893回。
4. 七々頭ヶ岳△693m。  
第770・796回。
5. 七々頭ヶ岳と新谷山△662m。  
第851回。
6. 丹生谷  
第846回。
7. 行市山△660m。  
第884回。
8. クサビラダイラ△533m  
第598回。
9. 野坂岳△914mと黒河。  
第556・643・646回。
10. イワゴモリ△765m。  
第958回。
11. イワゴモリと宮ノ尾7204m。  
第1134回。
12. 総見山△657m。  
第908回。
13. 乗鞍岳△866m。  
第1131回。
14. 三國山△876mと赤坂山8238m。  
第1009・1285回。
15. 赤坂スキーツアー  
第1299回。
16. 猿ヶ馬場山6517mと乗鞍岳。  
第1284回。
17. 湖北山塊縦走山岳スキー練習会。

第92回。

18. 奥マキノ

第125・212・218・692回。

竹生島(16号)

1. 東山 $\Delta$ 595*m*。

第1018回。

続いては、第18回白山で 20万、金沢。

城端(1号)

1. 犀滝と医王山 $\Delta$ 939*m*。

第954回。

下梨(2号)

1. 猿ヶ山 $\Delta$ 1448*m*。

第1275回。

白川村(3号)

1. 猿ヶ馬場山 *c.a.*1880*m*。

第1262・1537回。

2. 三方岩岳・1719*m*と猿ヶ馬場山。

第1180回。

3. 御前岳 $\Delta$ 1816*m*。

第675回。

4. 大笠山 $\Delta$ 1822*m*。

第1366回。

5. 茂ヶ岳 $\Delta$ 1841*m*。

第1486・1534回。

6. 白川郷・三方岩岳。

第722・1058回。

白山(4号)

1. 白山 $\Delta$ 2702*m*。

第18・251・746・889・1310・1443・1583回。

越前勝山(8号)

1. 願教寺山 $\Delta 1691m$ 。  
第1523回。
2. 野伏岳 $\Delta 1674m$ 。  
第1480回。
3. 加越国境  
第1355・1417回。
4. 判官堂尾根  
第1576回。
5. 大長山 $\Delta 1671m$ と赤兎山 $\Delta 1629m$ 。  
第1544回。
6. 法恩寺山 $\Delta 1357m$ スキーツアー。  
第1528回。

大聖寺(11号)。

1. 富士写ヶ岳 $\Delta 942m$ 。  
第647・1393回。

福井(16号)

1. 国見岳 $\Delta 656m$ と富士写ヶ岳。  
第669回。

お次は、第20回木曾御嶽で、20万飯田。

赤穂(2号)

1. 木曾駒ヶ岳 $\Delta 2956m$ 。  
第350・360・371・436・549・919・930・934・  
1118・1122回。

木曾福島(5号)

1. 大柵入山 $\Delta 2375m$ と辰ヶ峰 $\Delta 1817m$ 。  
第1083回。
2. 国設御岳スキー場  
第1471回。

上松(6号)

1. 糸瀬山△1867m。

第1442回。

2. 奥三界山△1810m。

第952回。

中津川(8号)

1. 恵那山△2190m。

第572・900・949回。

2. 恵那山と三界山

第651・1270回。

御嶽山(9号)

1. 御嶽△3063m。

第20・293・381・383・392・427・429・505・533・  
727・740・877・977・1375・1525・1606回。

2. 剣ヶ峰と継母岳・2867m。

第450・481回。

3. 尺ナンズ谷

第526回。

4. 赤地獄谷

第710回。

5. シン谷

第762回。

6. 赤川谷

第909回。

7. 秋神高原

第236回。

下呂(14号)

1. 大洞山(ボンデン)△1035m。

第1391・1430回。

そのお次は、第21回金剛山のご登場で、20万和歌山。

桜井(1号)

1. 神野山△619m。

第577回。

2. 鳥見山c a 740 mから貝ヶ平山△822 m。

第1586回。

3. 伊那佐山△637 m。

第973回。

4. 大和三山

第636・1567回。

#### 吉野山(2号)

1. 音羽山△852 mと龍門岳△904 m。

第1481回。

2. 龍門岳△904 m。

第652回。

3. 白屋岳△1177 m。

第620回。

4. 高取山△584 mと壺坂山・359 m。

第640回。

#### 山上ヶ岳(3号)。

1. 四寸岩山△1236 m。

第785回。

2. 山上ヶ岳△1719 m。

第45・70・76・238・610・794回。

3. 大普賢岳△1780 m。

第573回。

4. 八剣岳△1914 m。

第491回。

5. 大峰山奥駈。

第832回。

6. 弥山川廻行・弥山。

第1049回。

7. 弥山～釈迦ヶ岳。

第1601回。

8. 上太古本谷。

第1550回。

9. 神童子谷。

第711回。

10. ノウナシ谷。

第77回。

11. 武士ヶ峰(南峰・1035m)。

第63回。

釈迦ヶ岳(4号)

1. 白川又谷。

第97回。

2. 旭川。

第53回。

3. 旭川廻行、七面山。

第248回。

大阪東南部(5号)

1. 信貴生駒縦走。

第73回。

2. 二上山と屯鶴峰。

第1613回。

五条(6号)

1. 葛城山△960m。

第240回。

2. 金剛山△1112m(最高点は葛木岳1125m)。

第21・175・227・297回。

3. 千早峠から和歌山縦走。

第305回。

4. 岩波山△900m。

第74・274・923回。

5. 槇尾山(日本山嶽志による標高は、海面を抽く二千八百余尺)。

第62回。

6. 槇尾山・三國山ca880m・燈明岳△857m。

第811回。

高野山(7号)

1. 高野山と陣ヶ峰 $\Delta 1106m$ 。  
第595回。
2. 高野山より龍神温泉。  
第1177回。

伯母子岳(8号)

1. 護摩ノ壇山 $\cdot 1372m$ から龍神温泉。  
第34回。

岸和田(10号)。

1. 和泉葛城山 $\Delta 866m$ から犬鳴山(いぬなきさんは、燈明岳・天狗岳・経塚権現などの総称)。  
第926回。

粉河(11号)。

1. 龍門山 $\Delta 757m$ と飯盛山 $\Delta 746m$ 。  
第1010回。
2. 和泉三峰山 $\Delta 577m$ 。  
第936回。

動木(12号)

1. 水ヶ宝形山 $\Delta 1063m$ から城ヶ森山 $\Delta 1269m$ 。  
第942回。
2. 白馬山 $\Delta 957m$ 。  
第635回。
3. 生石高原 $\Delta 870m$ 。  
第257・1342回。

以上の地勢図七面に展開した例会からは、登りたき私の願望の山々を挙げると、

名古屋で、彦根市の最高峰 $\cdot 683m$ 男鬼山。鎌ヶ岳。

松江で、烏ヶ山。

岐阜で、猿塚。左門岳。夜叉妹池。板並岳。臥竜山。鉢伏山。七々頭ヶ岳。総見山。  
三国山。赤坂山。

金沢で、大長山。顯教寺山。

飯田で、大棚入山。秋神高原。

和歌山で、大和三山。高取山。武士ヶ峰。犬鳴山などである。

1987年1月5日

## 山 癡 雑 記 三 十 九

伊 藤 潤 治

### 1. 三 國 山 と 薺 老 山

この山を目指した12月14日は第1611回例会で、同志の〇氏のご還暦を慶祝する大切な山行ながら、あいにく時雨する空であった。だが、雨衣に身を固める程でなかったのは、流石に同志のご人徳ならびにご精進の賜物であると数々の瑞象と共に感心させられた。

鳥谷の清流を胡麻峠に上ると、前に見晴らし。傍には、つつましかやかな石仏二体ある申し分ない峠であった。取り分け石仏は、標石にも覆れて貴重に思える、心うれしきご存在であった。

附泉境稜の景観も、ブッシュの育たない美しい林床や、そこに立つ裸木のすがすがしい梢が、たまらなくきれいだった。

それよりも、雲海上に黒々と峰頭を突出させて並ぶ低山の偉容は、生きた墨絵を見る如くで、限りなき厳そかさ、この雨気ならではの圧巻。霧がさまざまに織なす変化百態は、まさに一期一会の美景なり、と感激をあおられた。好天でなくて本当に良かった、とは全くおかしき喜びである。

このように稀なる感恵に浴し意饒を深めたこの記念山行は、不調41日目の私にとっても、奮起の門出となったので、慶ばしく忘れられない山行であった。

所用図の舞鶴は、鶴が舞い遊ぶ、めでたい光景の名称である。いつまでも、この吉兆にあやかりたいと思う。

### 2. 千 町 ケ 峠

この山は、76才、73才、61才のメンバーが1986年度の納山祭りと12月21日に登った。前夜にその山麓、兵庫県宍粟郡一宮町千町にある、こぶしの村で、曲炉裏に炭火の暖という風流な一室にこもり、お燗やすき焼きで納山の宴を楽しんだ。

屋外は木立も道も二日前の降雪が、凍て付いたままの厳寒であったが、飲み倒れて朝を迎えていた。いささか物憂い二日酔気味で、8時20分、好天でまぶしい雪景の道を登りだす。ナナマカリ谷を渡り、ヒガマ谷右岸をたどって、左岸に移る辺りだけ枝の雪や露岩をうるさく思った他はよいコースであった。

頂上へ500m標の上で、ヒガマ谷を左岸にまぐと、そこからは青空下の自然林に出たので、にわかに積雪が深くなった。間もなく雪を被った笹群帯でルートを紛失さす。しばらく雪まみれになって進むと、処女雪で広い頂稜の端に上れた。その頃から寒風が吹き、霧まで舞いはじめ、千町



ヶ峰Ⅲ△1,141.3m(大屋市場)についた11時20分は、視界をとざされ、すっかり白い世界になっていた。

烈風のため惜しくも滞頂15分で下山。しかし山麓に戻ると、何もなかったような美しい青空である。それと奇妙な事は、小屋で就寝中、尿意があって度々便所に通っても、全く放水まきならず断末魔の苦痛があった。この病原、周りは笑うけれど、こぶしの村の駐車場隅での立小便の崇り、であったと思っている。

こぶしの村の宿泊は、〒671-43 兵庫県宍粟郡一宮町三方町、田中哲雄村長あてに。

### 3. 戸平の虚空蔵山と氷上槍こと鷹取山

これは12月27日、アフリカ学者、和崎洋一教授と京都山の会、横田明男副会長と私の、やはり納め山。ありていはどうも遊山である。これに吉村比佐女史から、足の具合がわるいのには、無理せんとい山にしとおきやす。とご忠告があった。そうかも知れない。

前者は「減渉譜、第24号」で、「これ程美事な虚空蔵さんが一」と、慶次盛一さんの感嘆による山であり、後者も、その山行に英姿をひけらかしていたという一連の山である。

副会長の超デラックスカーで、戸平峠トンネル東につき、右の小道を峠に上ると、旧街道の面影をとどめた情景。そこを左折すれば、左に孟崇竹の鮮緑林。右に小洞を見て、すぐ直進か左折の岐路。左が幅広くゆるやかでよく踏まれてあり、これをたどる。はじめさっぱりしていたが、追々に無精ひげ状になり、そろそろトンネル西らしいのに、まがトラバースである。今更だがあの岐路は直進と分った。そこから一汗かいてca360mに登った。疎林の快い頂きに小さい御堂があってはっと胸のときめく艶麗な、虚空蔵菩薩がお座りであった。慈愛や知性の感じられる美事な石像である。

かくて9時50分、わが丑歳生涯の守りご本尊、虚空蔵菩薩に、ありがたく触れ得たのであるが足がわるいからこそ敬慕のつづいた山でもあった。

教授恒例の献茶があり、10時30分、御堂前を辞し北東に参道を下って、戸平峠にもどった。戸平峠を西行しR175号線に出て、東勅使から永郷池奥に入って駐車が11時20分。

茶の湯のために、さわやかな音をあげて流れる渓水を汲み、11時30分その左岸のやぶいちご群が赤い鈴なりの道を行く、副会長はまが車が入れたとおっしゃる副員である。

約8分で巡視塔、この取付は急坂と落葉でしんどかった。トラバースになって鳥の声に気がつく、鳩が交っていたそうである。

第116号铁塔12時5分着、ここでご気嫌談義が25分に及ぶ。第117号铁塔12時45分北が開け五台山、親不知の姿があった。左にとると頂上を仰ぐ直下の平、氷上槍の名にそむかぬえらい斜面が落葉疎林を彩って立っていた。

いい汗が全身に吹き出る事しばらくで、鷹取山Ⅳ△566.4mと「雷大御神、大正6年4月」に、13時8分登りついた。そこにもろもろの妙が被露されて、風雅な2時間を楽しみ、ごきげんさんで往路を、16時10分めでたく駐車点に下山した。(二山とも福知山五万図葉)。

### 4. 丹波 白山

1987年丁卯歳の元旦は、白く清らかな兔を連想して、その名も清き白山に登った。家を5時25分に出て、氷上町谷村に7時20分。通りかかった里人に、登山道を白山神社横の林道、だが近頃山を掃除しないから歩きにくいだろうと教わった。

ところがその林道側溝に車を傾かせてしまい、近くの矢田誠さんに池け込み、お助けいたがいた冷汗的一幕があって、8時15分小雨の中、林道車行を反省しつつ歩き出す。

池を左に、右にお稲荷さんまではきれいだったが、以後は掃除をしてなかった。しかし雨天でなければ結構な道である。20分許りで右岸に渡る。里人が心配してくれた程歩きにくくはない。

15分程で左岸に移ると、岩上に石仏が祭ってあって、辺りも参道の格好だ。しかしここが一丁目だろうか。

点在する石仏に見守られて約10分で穴桜と清流のある台地。ここは茶店と床几や甘酒などをしのばせ、道も大勢の参詣でにぎわった様子をとどめていた。

約20分で稜線に達し、やせ尾根の木立を5分許り上ると、白山・547m、白山権現宮前であった。この初登に、あくまでも白く清らかにとの、神のご祝意だろうか、砂糖のような露を美しく降りそそいで下さっていた。

歓喜胸一ばいで下山20分。にわかには頭上を群雀のたがならぬさえずり。ふと、コンパスが気になり、鞆を見てもない。「コンパス求めて、はないちもんめ。再び白山に登って、波の花吹雪を浴び、「あってうれしや はないちもんめ。

白山は実にすばらしい奥になった。この分では干支にあやかって、大いびょんびょんはねられそうに1987年である。

駐車点11時25分。帰宅13時25分。篠山5万図葉。

1987. 1. 8

## 例 会 報 告

例会No	目的地	月 日	天候	担 当 者	参 加 者	記 事
1610	湖北 天吉寺山 (変更)	12月 7日	小雨 ・ 雪	大槻 雅弘	三橋 勉 原田加津子 津田 実	天吉寺山の登頂は雪の中ブルブル震えて立ったままの三角点での食事であった。 (別稿詳報)
1611	三国岳・ 養老山	12月14日		岡田 茂久 田中 忠久 津田 実 大木 秀美	奥村、近藤 伊藤、中村 山村、横井 今井、出海	…多くの山の仲間と奥村弘信氏還暦お祝い登山が挙行できたのは、いまさらにその有難さ、幸せが身にしみる想いで

				渡辺智、方山 大槻雅、三橋 吉田、岡本義、和田、台 川、大倉、森本、大倉 F 武田、武田 F、荒田	ある。  (別稿詳報)
1612	納山会	12月21日	晴	山元 誠一 坂井、岡田 鷺見、鷺見 F 出海、木下、楠、方山、 大槻貞、三橋、井戸、 井戸 F 3、川原	いざ山に入ると子供の事も何 もかもすべて忘れてしまい、 好天の下、充分山登りを楽し むことができました。  (別稿詳報)
1613	初登山 二上山 屯鶴峰	1月 4日	晴	岡田 茂久 近藤、奥村 津田、村、 渡辺智、渡辺 F 1、楠、 原田、方山、和田、三橋 鷺見、大槻貞、渡辺明、 井上	右手には泉州平野…(略)… 左手には大和の田野がひろが っている。これぞ備千金、汗 水を流して登って来た甲斐が あったと云うものが。  (別稿詳報)

## 雑 報

### ▲1月の集会および新年会

8日 あみ船 小島

昭和62年の新年会は、1月8日 午後6時30分より、桂川畔松尾橋下流の あみ船 小島で催されました。岡田部長、及び特別参加の清水京都府山岳連盟理事長のあいさつの後、OBの近藤氏の発声により乾杯して宴に入り、参加者全員に今年の抱負を発表してもらいました。以下参加者の今年の抱負を報告いたします。

#### 大槻槻(本局)

昨年は仕事もいそがしかった割には、山に多く登らしてもらいました。(40山)。  
今年も自分なりに山をこなして行きたい。もう少し若い人達が自主的な山行をしてもらいたい。

#### 荒田(市役所)

昨年は、日曜日に仕事がたてこんでいたので…。  
今年はずいぶんたくさん連れて行ってもらいたい。

方山（本局）

去年は槍ヶ岳に行けなかったが奥穂に行ってきました。

今年はぜひ、槍ヶ岳に行きたい。楽しい山行にはさそって下さい。

坂井（OB）

一等三角点で未登の山が東北、北海道にあるので、今年登りたい。

いつか、全部登ってしまったら、世界の名峰にも登りたい。

渡辺朋（OB）

私は今、新田次郎の世界に浸っています。山男は素晴らしい人ばかりです。

それに比べ、山女は…。 去年は山らしい山、御岳1つだけ登りました。今年も1つだけ登ります。

近藤（OB）

私は「1年1山」という考え方で、今年も登りたいので、ヨロシク。

津田（OB）

えらいすいまへん。去年はもっと行きたかったがヨメハンが怖かった。今年は、ヨメハンを蹴飛ばしてでも、いや蹴飛ばされても、行きたい。月1回、年12回ファミリーで行きましょう。（今年立山-薬師岳に行きますので、ヨロシク。）

渡辺智（本局）

今年ナマケモノの行ける山に行きたい。よろしく。

山口（九条）

去年は笛吹へ行けなかったのが残念!! 今年子供ができれば行けそうにないが、印象に残る山に1つだけでも行きたい。

三橋（本局）

坂井さん、伊藤さんに負けないようにしたいが、仕事が忙しくてなかなか行けませんが、春・夏・秋・冬のけじめに行きたい山に行きたい。

田中（錦林）

今年で大台（50才）にのる、しかし先輩達をみると、人生の本番はこれからと思う。山もこれから本番です。

加藤（烏丸）

今年より岩登りをしっかりやりたい。

40周年の山行にむけて、がんばりたい。

森本（烏丸）

私は年に80回位比叡山に登っています。通算すると800回位になります。

トレーニングの場として登っています。よろしく。

大倉（烏丸）

毎年ネームバリューのある山に登りたい。初登山は家族全員で登った。夏山も家族で、

3000mの山に登った。冬は家内といっしょにスキーを楽しんだ。  
定年後もいっしょに山に登りたい、よろしく。

吉田(梅津)

毎年おなじ事ですが、今年もよろしく。昨年は45山ほど登りましたが、坂井さんには追いつかなかった。来年は京都国体がありますが、協力して成功させたい。

大木(本局)

毎年おなじ事を云っていますが、今年も月1回例会に参加したい。  
集会にも12回出席したい。

横井(OB)

昨年は肝臓を悪くして残念だった。今年も月1回、年12回必ず参加します。

奥村(OB)

昨年は還暦登山をしてもらいましてありがとうございました。  
秋に山に登りすぎて膝をいためてしまいました。今年も事情の許すかぎり参加するつもりです。

山村(OB)

私は、住んでいる所が山ですので、年365山、いままで約2万山です。  
例会には、行けそうな所には参加したいので、よろしく。

伊藤(OB)

5~6年前から念願だった荒谷山に登れなかったのが残念であった。  
最近足がおかしくなっていたが、年が変り元気になったので、今年もいろいろな山に登りたいので、よろしく。

楠(本局)

去年は膝がいたくてより行かんかったんですが、今年は、がんばって行きますのでよろしくお願いします。

井戸(九条)

山岳部に入って早くも6年になりました。去年は、初登山で寒かった事。山スキーにはじめて行った事。あこがれのジャングルムに行った事が印象に残っています。  
今年もよろしく。

河合(高速)

昨年は勤務の關係で行けなかったが、今年に参加したい。25才です、独身です。

三浦(本局)

長い間、山岳部の例会には御無沙汰しております。今年も宴会には行かしてもらいます。

畑(OB)

昭和24年からの会員です。今年ががんばりますのでよろしく。

竹井（洛西）

昨年はジャンダルム行くといいましたが雨で行けなかったが、北岳に行きました。  
今年に行きます。

谷尾（OB）

ペーパー山岳部員で恥ずかしい。足手まどいになりますが、連れて行ってもらいたい。

塩野（OB）

勤務の都合で例会には参加できないが、個人で山に登っています。今年もよろしく。

鷲見（本局）

毎年ガンバルゾー、ガンバルゾーといっているが、今年は、63国体の前年のため、あまり例会には参加できそうもない。今年は、私達夫婦にとって25周年の年ですので大雪山に2人でいきたい。

岡田（高速）

去年は、良くも悪くもない年だった。昨年は、38山延36,000mに登りましたが、森本さんは、比叡山に80回ということで、年72,000mになります。皆さんもぜひ年間30山以上登っていただきたい。

今年は、63国体の前の年という事で、コースの調査等協力してもらい事が多いと思いますが、京交山岳部全体の力で、63国体を成功させたい。

清水（京都府山岳連盟理事長）

最近は何国コースをチョコチョコ歩いております。京都の山屋が総力をあげて、63国体を無事故で成功させたいと思います。お願い事ばかりで恐縮ですが、よろしく願いいたします。

（PM9:30 散会）

出席者

（OB） 近藤 薫、伊藤潤治、山村敏郎、畑 照人、坂井久光、奥村弘信、塩野和三郎、津田 実、横井襄二、谷尾嘉津子、渡辺朋子

（本局） 三浦貞義、渡辺啓生、方山宗子、大槻雅弘、三橋 勉、鷲見敏一、楠とし子、大木秀実

（高速） 岡田茂久、河合秀晃 （梅津） 吉田 武 （錦林） 田中忠久

（九条） 井戸澄夫、山口雅直 （洛西） 竹井 章 （市役所） 荒田又之助

（烏丸） 大倉寛治郎、森本清一、加藤満生 以上 30名

特別参加 清水朝一 京都府山岳連盟理事長

### 部費受領

荒田 昭、坂井久光、塩野昭三郎、飯原京二、荒田又之助、武田喜久郎、竹井 章、出海洋三、田村忠司、大沢 泰、岡田茂久、河合秀晃、石田幸次、中村富美夫

### 他山岳会の会報（受贈分）

12月号 青嶺（京都山の会）

1月号 北山（北山クラブ）、近畿山行（近畿山行会）、一等三角点（近畿山岳愛好会）  
趣味の登山（京都趣味登山会）、木籬（好山好会）、京都山岳（京都山岳会）

帆 布 ・ 濃 布  
テ ント ・ シ ー ト  
雨 合 羽

## 木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前  
TEL 801-5331(代)  
西大路営業所  
下京区西大路七条下ル  
TEL 321-0251

愛されるスポーツ店

## 京菱運動具店

本店 下京区大宮通松原上ル  
TEL (801) 1331  
十条店 南区竹田街道十条上ル東側  
TEL (691) 8041  
伏見店 伏見区伯耆町西友ストアー4F  
TEL (623) 0824  
山科店 山科区音羽野田町1番  
西友ストアー山科店  
TEL (592) 9770 内線 228

営業時間 一年中、山用品だけの  
プロショップ  
午前10～午後1時と午後3時～午後8時  
(午後1時～3時は閉店させていただきます)  
＜定休日＞ 火・水曜日

山・アウトドア プロショップ  
ログケビン



京都市中京区御幸町通  
蛸薬師南入  
(四條河原町・阪急河  
原町より徒歩約4分)

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店

あらゆる地図のご用命は

株式会社

## 小林地図専門店

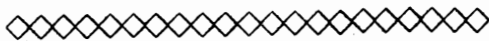
600 京都市下京区烏丸通六条下ル  
TEL 075(351)6598(代)  
地下鉄：烏丸五条 6番出口南50m  
市バス：烏丸六条下車

昭和62年2月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部



お知らせ

今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。改築期間中(約1年間)は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。



移転先 本店2階

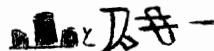
京都市中京区西ノ京門町24

ダイヤ運動用品株式会社



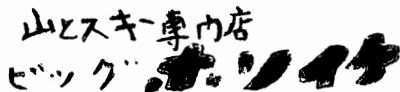
MORIIKE

まかせて下さい...ネ



☆在庫豊富にとり揃えています

☆山の道具はセヒ 御相談下さい



河原町店 上・河原町通丸太町東入

TEL 222-0363

御婚礼  
御引越



専門

ぎおん菊水運送株式会社

山科配車センター

京都市山科区西野山階町 12-12

TEL (075) 581-3101

本社

東山区大和大路四条下ル 541-2345

夷川営業所

中京区室町二条上ル 256-3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品  
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88

TEL (075) 771-3442



この用貝の事ならコニシが一番です!

御来店ありがとうございます

山とスキー レジャー スポーツ ショップ

そして

海の



中・二条通河原町西 TEL 231-1202